

第 2 章

街かどの歴史的景観資源を見よう

1 立地・構成パターンの紹介

- (1) 歴史的建造物の立地パターン 23
- (2) 樹木の構成パターン 24

2 実際に見よう

- (1) 歴史的建造物 25
- (2) 樹木 35

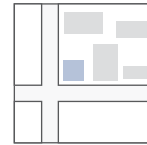
1 立地・構成パターンの紹介

札幌は、格子状の街路構成が基本となっています。これにより、立地や構成状況にいくつかのパターンが見られます。

(1) 歴史的建造物の立地パターン

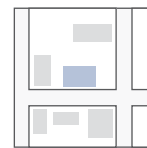
① 角地に位置する場合

- 二つの道路が交差する角地に歴史的建造物があり、シンボリック的存在となっている。



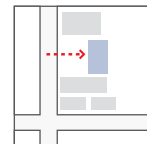
② 沿道に位置する場合

- 道路に沿って歴史的建造物があり、通りから街並みの一部として見えている。



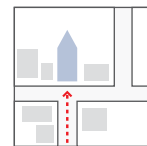
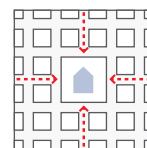
③ 道路から離れている場合

- 他の敷地や自身の前庭等により道路から奥まった（引きがある）場所に歴史的建造物があり、隣接する建物に挟まれる場合などは、通りから見えにくくなっている。



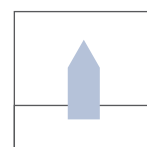
④ アイストップとなっている場合

- 通りの突き当たりに歴史的建造物があり、象徴的に見えている。



⑤ ランドマークとなっている場合

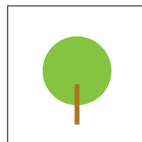
- その土地の目印や象徴となるような個性的な景観を生み出している。



(2) 樹木の構成パターン

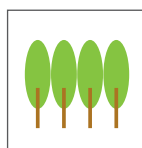
① 単木の場合

● 独立している樹木。



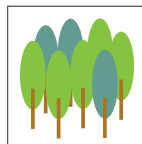
② 並木の場合

● 道路の両側などに、一定間隔で並んでいる樹木。



③ 群の場合

● 公園等のまとまりのあるみどりで、地域の景観を特徴づけている。

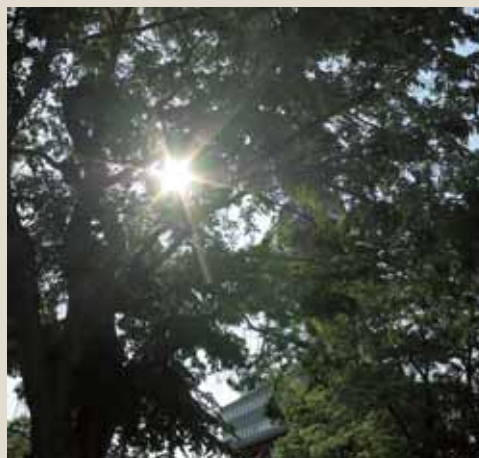


歴史的景観資源のみどころ

札幌の原風景を偲ばせる樹木

北大構内や植物園に今も大木が見られるハルニレ(エルム)は、豊富な地下水のある場所を好んで育成する性質があります。

豊平川扇状地の上に造られた札幌の街には、かつてたくさんのメム(湧泉)や小川がありましたが、そのような原風景を偲ばせる樹木といえるでしょう。



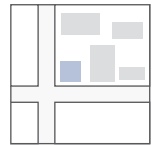
2 実際に見てみよう

歴史的景観資源の立地・構成パターン別に、上手に活用されている事例を紹介します。

(1) 歴史的建造物

歴史的建造物は、格子状の街区の様々な場所に位置しており、時の流れの中で各々の時代の街かどを演出してきました。立地パターンごとに、歴史的建造物の雰囲気を活かした街かど景観を見ることができます。

① 角地に位置する場合



眺望が確保されています

隣接する建物がピロティを設けることで、見通しが良くなり、歴史的景観資源を歩きながら楽しむことができます。



デザインが調和しています

外観のデザインや軒線、階高を歴史的景観資源と協調させることで、街かど景観としての連続性や一体感をつくり出しています。



壁面線の位置やスカイラインが連続しています

隣接する建物が、壁面の位置やスカイラインを歴史的景観資源と協調させることで、連続性やリズム感をつくり出しています。

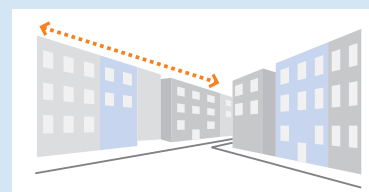
工作物等の配慮が見られます

地下通路の出入口の素材がガラスのため、周囲に溶け込み、歴史的景観資源への見通しが良くなっています。また、歩道の素材や色彩も調和しています。



街並みに一体感を出したい場合

歴史的景観資源と周辺の建物のスカイラインや軒線、階高を協調させると、街並みの一体感や連続性を創出することができます。



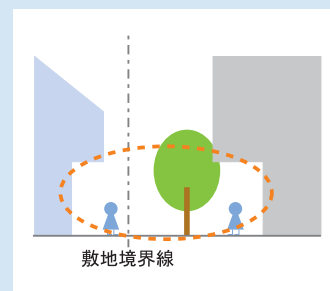
空間の一体性が見られます

隣接した建物が、時計台側に大きな開口部を設けるとともに、広場をつくることで、時計台と一体となった空間が生まれています。



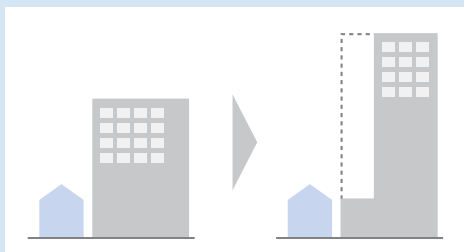
空間の一体性

隣接して建物を配置する場合は、歴史的景観資源側に眺めることができる場所や、敷地境界を感じさせずに使える広場をつくることで、空間の一体性を生むことができます。



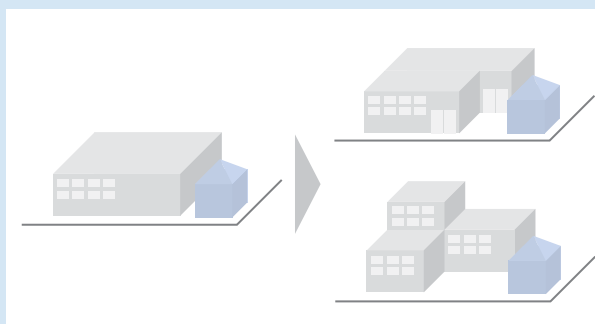
空間づくりの工夫①

隣の敷地に高層の建物を建設する場合、高さを検討したり、高層となる部分をセットバックさせるなど、建物の形態や周辺からの見え方を考えることで、歴史的景観資源への圧迫感を与えないようにすることができます。



空間づくりの工夫②

大きな建物が敷地ぎりぎりに張り付いて建つと閉鎖感を与えます。道路側や歴史的景観資源側へ空地を取ったり、建物を分けたりすると、空間を広く感じることができます。

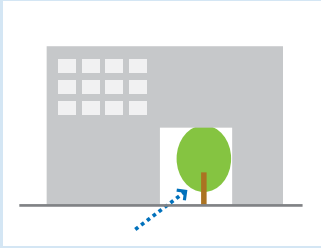


ご活用
ください

第2章における水色の部分は、周辺で新築、増築などを行う際の、歴史的景観資源を活かすための設計のポイントです。

見え方が楽しめる工夫

意識して周辺の建物の形を工夫することで、歴史的景観資源の違った一面を楽しむことができます。



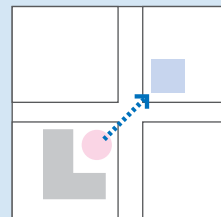
歴史的景観資源が眺められます

向かいの建物の2階には、時計台が良く見えるテラスがあり、地上からとは違った眺めを堪能できる場所となっています。



様々な場所から眺められる工夫

歴史的景観資源に面して窓やテラス、庭を設けると、ゆっくりとその建物を眺めることができます。



歴史的景観資源により付加価値を高めています

隣接した建物は、1階のアプローチ空間や店舗から時計台を眺められるような開口部を設けることで、建物の付加価値を高めています。

歴史的景観資源のみどころ

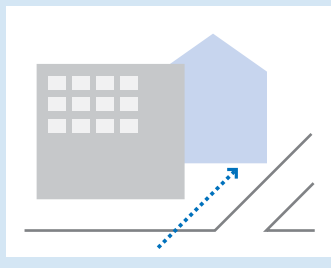
時計台は頭でっかち?

札幌を代表する歴史的建造物となっている「時計台・札幌市郷土博物館」は、かつては札幌農学校(現北海道大学)の演武場として建てられました。しかし、当初建築された時計塔にアメリカ製の機械を納めようとしたところ、大きすぎて納まらなかったため、後に時計塔のみがつくり直され、当初の設計と比べて建築本体のわりに頭でっかちな現在の姿となりました。



様々な場所から 楽しめる工夫

周辺の建物の配置や形態に配慮すると、通りの遠くからでも、歴史的景観資源を見ることができます。

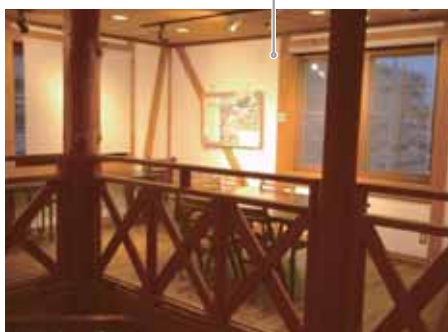


歴史的景観資源が 良く見えています

隣接する建物がセットバックすることで、歴史的景観資源への見通しが良くなっています。

地域活動の場として 使用されています

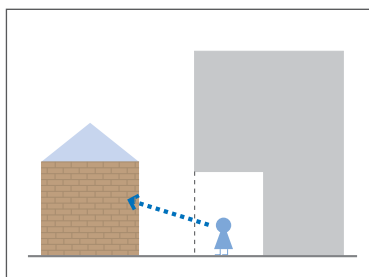
ぽすとかんは、旧石山郵便局として利用されていました。現在は、地域の会合や子どもの習い事など様々な場面で活用されています。



景観
まちづくりの
POINT

歴史的景観資源の価値を取り込んでみましょう

周辺の建物を整備する際は、歴史的景観資源の様々な魅力を取り込むと、お互いの価値が高まります。例えば、歴史的景観資源の壁面に特徴がある場合などは、壁面側に開口部を設けたり、アプローチを壁面沿いにつくことで、空間に変化と豊かさが生まれます。



歴史的景観資源のみどころ

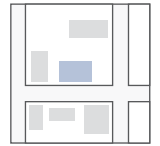
札幌軟石には様々な表情が

札幌の街の草創期に建築材料として活躍した札幌軟石は、約4万年前に支笏湖を形成した火山活動の火砕流堆積物が熔結したもの、アメリカ人技師のアンチセルによって発見されました。現在でも南区常磐に採石場があり、建築の壁面材や庭石などに使われています。

当時は全て職人による「手掘り」で切り出されており、表面の仕上げには、のみ跡を残す「のみ切り仕上げ」や岩肌をごつごつ残す「こぶだし仕上げ」、のみの先で突き跡を残す「突き仕上げ」など様々な仕上げ方があります。



② 沿道に位置する場合



壁面デザインが調和しています

壁面の素材や色彩に配慮することで、一体感のある個性豊かな街並みをつくり出しています。



看板や広告物に配慮しています

広告物が周辺の建物や雰囲気になじんでいます。



低層部のデザインの工夫

建物の低層部は特に歩行者の目につきやすい部分で、街並みをつくっていく上では重要です。軒の高さや開口部などの位置、色彩や素材などを歴史的景観資源と協調させることで、連続感やリズム感のある街並みができます。



適切な素材の選択

歴史的景観資源は時間の経過とともに素材の持ち味や落ち着きが増していきます。調和を考えた素材を選択することで、歴史的景観資源が際立つとともに、周辺の建物も同時に活かすことができます。

壁面の位置について

- ①歴史的景観資源と周辺の建物を協調させて連続的な街並みとしたい場合は、壁面の位置をそろえることで、一体感を創出できます。
- ②一方、歴史的景観資源のシンボル性が高い場合は、周囲の建物をセットバックさせることで、際立たせることができます。

色彩に配慮しています

歴史的景観資源との調和を意識した色彩を用いています。サッポロファクトリーの向かいの建物でも同様の手法が見られます。



建物の色彩

彩度の高い色を建物の大きな面積で使用すると目立ってしまい、街並みの調和を乱します。歴史的景観資源との調和を考えた色彩を検討すると、落ち着いた雰囲気が生まれます。



沿道の植栽に連続性があります

歴史的景観資源沿道の樹種や規模が連続して配置されていることで、景観のシークエンスを意識したリズム感のある街並みができています。



カフェとして利用されています

通りに面している1階部分を飲食店に活用しています。これにより、人も集まり賑わいも生まれています。



看板がすっきりしています

沿道に煩雑な突出看板や置き看板がなく、視界がひらけており、街並みがすっきりとまとまっています。

植栽の種類

歴史的景観資源周辺の敷地に樹木等を植栽する場合は、周辺の樹木、街路樹との関係などを考え、環境に調和する樹種を選んで配置することで、調和のとれた街並みができます。



沿道の舗装が調和しています

沿道の舗装の素材や色彩を歴史的景観資源に合わせて整備しており、連続性のある街並みをつくり出しています。



景観まちづくりのPOINT

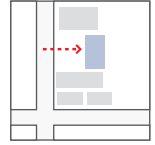
シークエンスを意識してみましょう

人々が歩くことや車を運転することで、次々と移り変わっていく景観を、シークエンスと言います。

歴史的景観資源への視点が移り変わることで、歴史的景観資源や周辺の建物を含めた見え方が変化していきます。景観の変化や連続性、一定のリズム感などを意識することで、まち歩きが楽しくなるような魅力的な景観づくりにつながります。



③ 道路から離れている場合



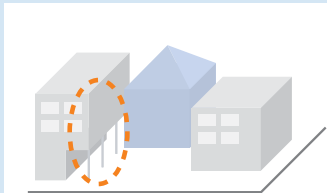
視界が確保されています

周辺の建物がセットバックすることで、歴史的景観資源への可視範囲が広くなり、通りから認識することができます。



引きの空間を活用した魅力づくり①

歴史的景観資源に隣接する建物は、側面についても色彩や形態等のデザインに配慮することで、お互いの関係を引き立たせることができます。

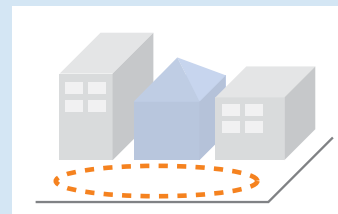


空間の一体性が生まれています

隣接する建物がセットバックしていることにより、歴史的景観資源の引きの部分と一体的な活用ができています。

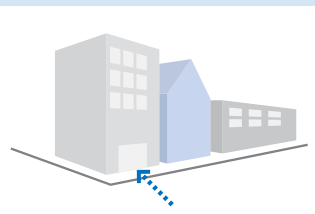
引きの空間を活用した魅力づくり②

隣接する建物をセットバックさせ、歴史的景観資源の引きの部分と一体的な利活用を行なうことで、魅力ある空間づくりができます。



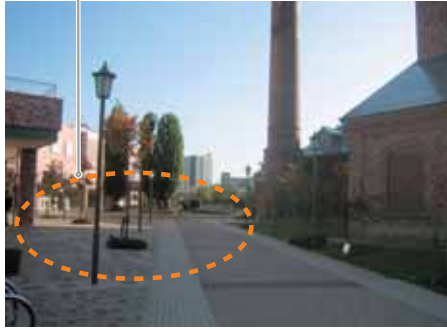
建物の顔となる向きを歴史的景観資源の向きに合わせてと賑わいが生まれます

歴史的景観資源の入口や顔となる方向に、隣の建物の正面も合わせることで、歴史的景観資源が持つ表情の良さを活かした空間づくりができ、賑わいが生まれます。



空間に広がりが生まれています

歴史的景観資源の広場と隣接する建物の広場を一体的に整備することで、空間に広がりが生まれています。



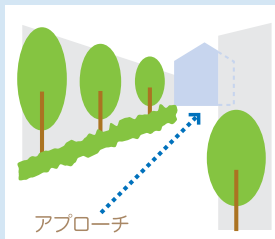
歴史的景観資源の周辺の舗装

歴史的景観資源の引きの部分や前面道路の舗装を考慮することで、質の高い空間が生まれます。



歴史的景観資源へのアプローチ空間づくり

前面道路との引きの部分に植栽などを行うことで、歴史的景観資源へのアプローチ空間を演出することができます。



空間が演出されています

引きの空間に植栽を行うことで、奥行きのある景観をつくり出しています。

景観 まちづくりの POINT

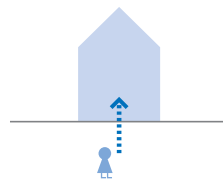
歴史的景観資源をじっくり見てみましょう

歴史的景観資源は、建物の正面から見た方が美しいもの、建物全体に特徴のあるものなど、形態や周辺のしつらえによって「見せ場」が異なります。

この特徴や違いを踏まえて、どこに視点を置き、その時どのように見えてくるのかを考えて、歴史的景観資源の「見せ場」を活かした景観づくりを進めることが大切です。

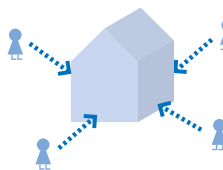
■顔のある歴史的景観資源

道路に面している壁面が特徴的である場合や、壁面の意匠や形態が優れている場合は、正面性を活かしてみましよう。



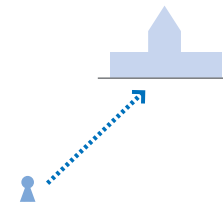
■建物全体が眺められる歴史的景観資源

建物全体の意匠や形態が優れている場合は、あらゆる方向からの見え方を意識してみましよう。

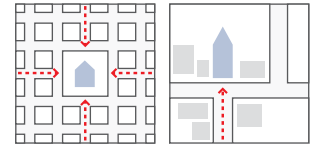


■遠くから眺められる歴史的景観資源

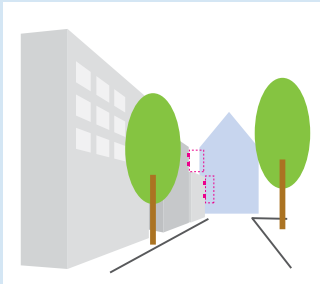
規模が大きいものなど、遠くから眺めることができる場合は、広い視点で捉え、街のランドマークとして活かしてみましよう。



④ アイストップとなっている場合

様々な場所から
楽しめる工夫

歴史的景観資源がアイストップになっている場合は、輪郭線をくずさないように、周辺の建物の配置や広告物の位置を工夫することで、シンボルとして街並み景観を演出することができます。

並木により視線が
誘導されています

アイストップとなる通りに、一体性を持った並木を配置することで、歴史的景観資源へ視線を誘導しています。

セットバックにより見通し
が良くなっています

アイストップとなる通り沿いの建物等が、セットバックしているため印象的な景観をつくり出すことができます。

景観
まちづくりの
POINT

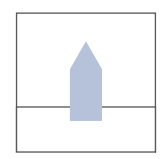
シーンを意識してみましょう

視点が固定された眺めをシーン（場面）と呼びます。歴史的景観資源を近くから見る場合、周囲も含めて離れて見る場合とでは見え方が変化します。

近くから見る場合は、歴史的景観資源と隣接する建物の配置等の良い位置関係を見つけ活かすことで、心地よい空間づくりにつながります。一方、離れて見る場合では、歴史的景観資源を含めた地域全体を意識することで、調和のとれた景観づくりにつながります。



⑤ ランドマークとなっている場合



シンボル性を大切に

周辺の建物が、歴史的景観資源の素材や色彩、意匠形態を安易に模倣してしまうと、シンボル性が損なわれ、建物そのものが陳腐化することがあります。素材の一部や雰囲気を取り入れるなど、協調を考えたデザインにすることで、歴史的景観資源を中心とした景観をつくり出すことができます。



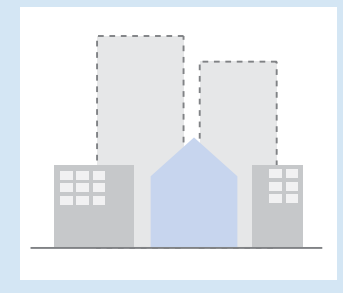
歴史的景観資源を眺望できています

ポケットパーク等の視点場があるので、歴史的景観資源への眺望を楽しむことができます。



高層部のデザインは遠くからでも認識されます

高層の建物は遠くからでも認識できるので、色彩や素材を周辺の建物や背景にある山並みなどの眺望に配慮することで、歴史的景観資源をより際立たせることができます。



景観まちづくりのPOINT

様々な位置から見てみましょう

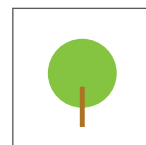
視点位置を変えることで、歴史的景観資源が周辺建物の手前に見える場合、背後に見える場合など、両者の見え方は変化します。それぞれの位置関係に応じて、歴史的景観資源の良さを最大限に引き立てる景観づくりを考えましょう。



(2) 樹木

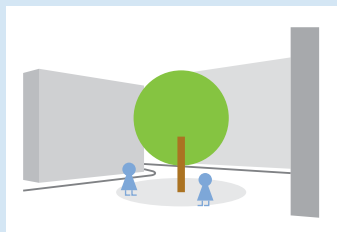
歴史的景観資源となる「樹木」は、数十年、時には百年単位の年月をかけて現在の姿となっています。これらは、街に潤いをもたらす貴重な景観資源です。樹木の構成パターンに応じた様々な空間づくりを見ることができます。

① 単木の場合



シンボル性を活かす工夫

単木のシンボル性を強調して施設を配置したり、周りの舗装材や植栽、ベンチなどの環境整備を考慮することで、人々が集まるたまり空間を創出することができます。



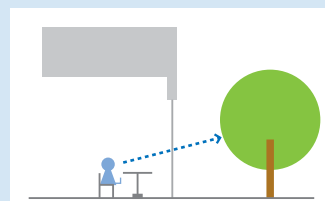
街のシンボルと なっています

単木を強調した建物の配置、周辺の環境整備を行うことで、街のシンボルとして活かされています。



樹木を見て楽しめる工夫

建物を計画する際に、歴史的景観資源である樹木が美しく見える位置に開口部を設けたり、見え方を意識した間取りとすることで、四季折々の変化を楽しむことのできる空間をつくることができます。

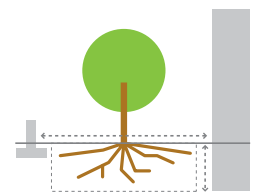
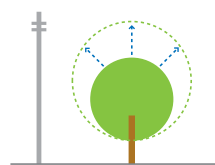
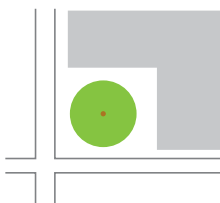


景観 まちづくりの POINT

樹木に配慮した開発を心がけましょう

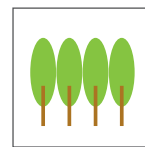
建物や工作物（電柱や看板など）を計画する際は、あらかじめ既存樹木の位置を確認したり、成長も考慮することで、樹木と建物がお互いを引き立て合う空間づくりが行えます。

また、広場や歩道等の整備をする際に、根を傷つけたり、樹木の生育環境に影響を与えないよう、十分な植栽基盤を確保することで、健康で美しい樹形に育つ環境をつくるすることができます。



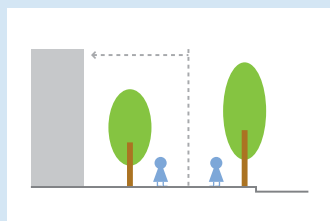
植栽基盤を十分に確保する

② 並木の場合



並木を活かす工夫①

建物をセットバックさせ、並木と呼応するように民地側も緑化をすることで、緑豊かな空間を創出することができます。

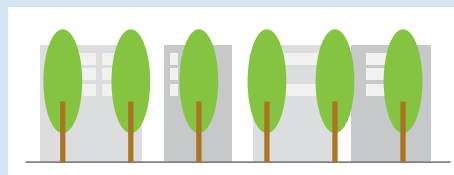


印象的な通りが形成されています

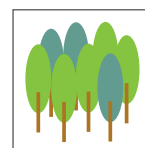
大きく育った連続的な並木が、印象的な通りづくりに一役かっています。

並木を活かす工夫②

並木沿いの建物の壁面線やファサードデザインを揃えることで、並木が映える街並みづくりができます。



③ 群の場合



みどりの群が住宅地に潤いを与えています

地域の景観を特徴づけるまとまった「みどり」が財産として守られており、緑豊かな印象を生み地域としての価値が高まっています。





1. 札幌市水道記念館 2. カトリック北一条教会 聖堂 3. レンガの館 4. 苗穂小学校学校記念館 5. 北大イチョウ並木 6. 北星学園創立百周年記念館 7. 沼田家住宅旧りんご倉庫 8. 城下医院 9. 石山緑地

歴史的景観資源のみどころ

法の女神テミスはどこをみてる？

大通公園の西端にある札幌市資料館は、全国で7ヶ所しか建設されなかった控訴院（高等裁判所）のうち、現存（名古屋と札幌に残る）する貴重な歴史的建造物です。その建物の正面にある車寄せには、中央にギリシャ神話の法の女神「テミス」の顔が、左右には正邪を測る天秤と力を象徴する剣が刻まれています。

テミスの顔をよくご覧ください。目隠しをしています。なぜでしょう。目隠しは彼女が前に立つ者の顔や姿を見ないことをあらわすもので、貧富の差や権力にとらわれない「法の前の平等」を示すからだそうです。国内では最高裁判所にもテミス像があります。

